

# 岡山城三之外曲輪跡（中央中学校）発掘調査概報

岡山市教育委員会

調査期間：令和6年4月8日～6月7日

調査場所：岡山市北区蕃山町6-10

## 岡山城三之外曲輪跡の概要

岡山城三之外曲輪は、近世岡山城を区画する中掘と外堀に囲まれた岡山城の最外郭にあたり、慶長5(1600)年から慶長7(1602)年のわずか2年の治世の間に小早川秀秋が整備したとされています。絵図や古図によれば、三之外曲輪内は津山往来沿いに町人町が形成された以外は全て武家地であり、北西部には岡山藩主池田光政によって寛文9(1699)年に藩士子弟のための藩校が設けられました。藩校の建物は昭和20(1945)年の岡山空襲で焼失しましたが、泮池は現在も岡山市立岡山中央中学校の敷地内に残存しています。

調査地点は岡山市立岡山中央中学校の敷地南東角であり、旧岡山藩藩学校の跡地にあたります。岡山市教育委員会では、平成16(2004)年と平成18・19(2006・2007)年に同校敷地内で校舎の建て替え・運動場の拡張工事に伴う発掘調査を行っており、藩学藩校やその後建てられた岡山県女子師範学校に関する遺構、外曲輪創設以前の遺構などを確認しています。

## 発掘調査の概要

今回の調査は、岡山中央中学校区公民館他整備事業に伴うもので、調査地点は既存のプール棟を解体した地点(トレンチ1)と、武道場とプール棟の間の駐車場であった地点(トレンチ2)の2か所です。調査は、初めに重機を用いて建物基礎や解体に伴う攪乱を除去し、地表面から1.5m以下に残存する包含層を露出させ、次に遺構の形状を確認できるまで包含層を掘り下げた後、遺構を検出した上で掘削を行うという手順で行いました。

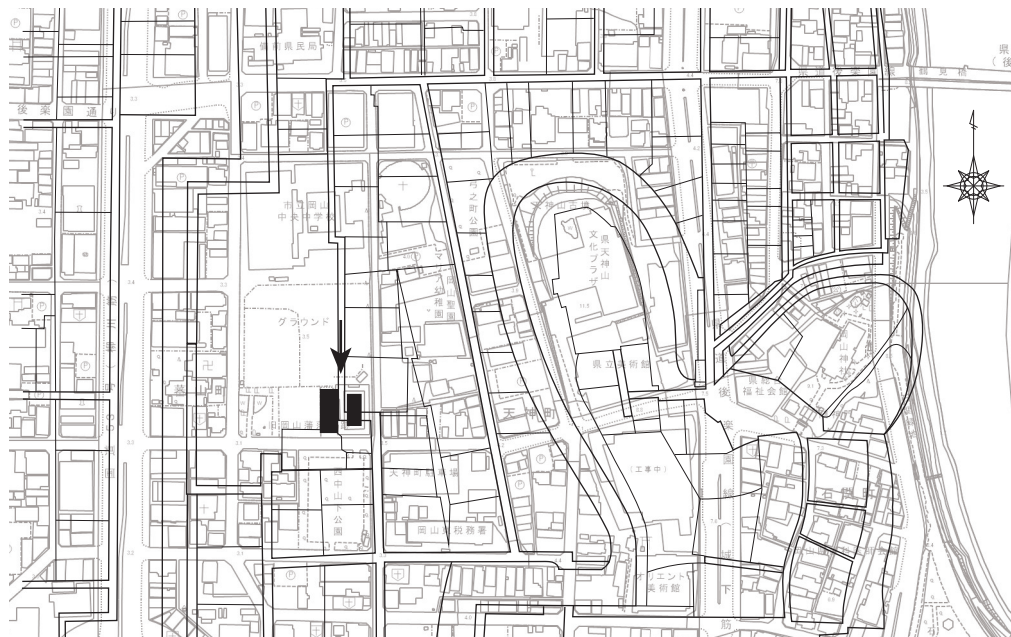


図1：調査区の位置 (S=1/5,000)

## 発掘調査の成果

### 〇トレンチ1

プール棟の基礎除去工事等により、トレンチ内は大規模に攪乱を受けており、遺構はあまり残存していませんでした。検出遺構は柱穴、井戸、溝状遺構、石組遺構があります。井戸は素掘り、石組みの2基を確認しました。石組みの井戸は、井戸としての利用が終わった後、埋め立てられゴミ穴として再利用されており、井戸内部から箸や漆器椀などが出土しました。石組遺構は、20 cm大の石をピットの内壁沿いに組み上げたもので、底部には瓦と石が敷かれていました。また、トレンチの北西部では、岡山県女子師範学校の外周壁の基礎とみられる溝状遺構を確認しました。出土遺物は、瓦、播鉢、甕、磁器、箸や漆器などの木製品、金属製品などがあります。



写真1：甕出土状況

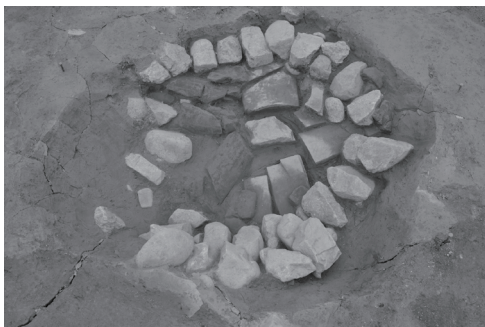


写真2：石組遺構



写真3：トレンチ1 全景（北から）

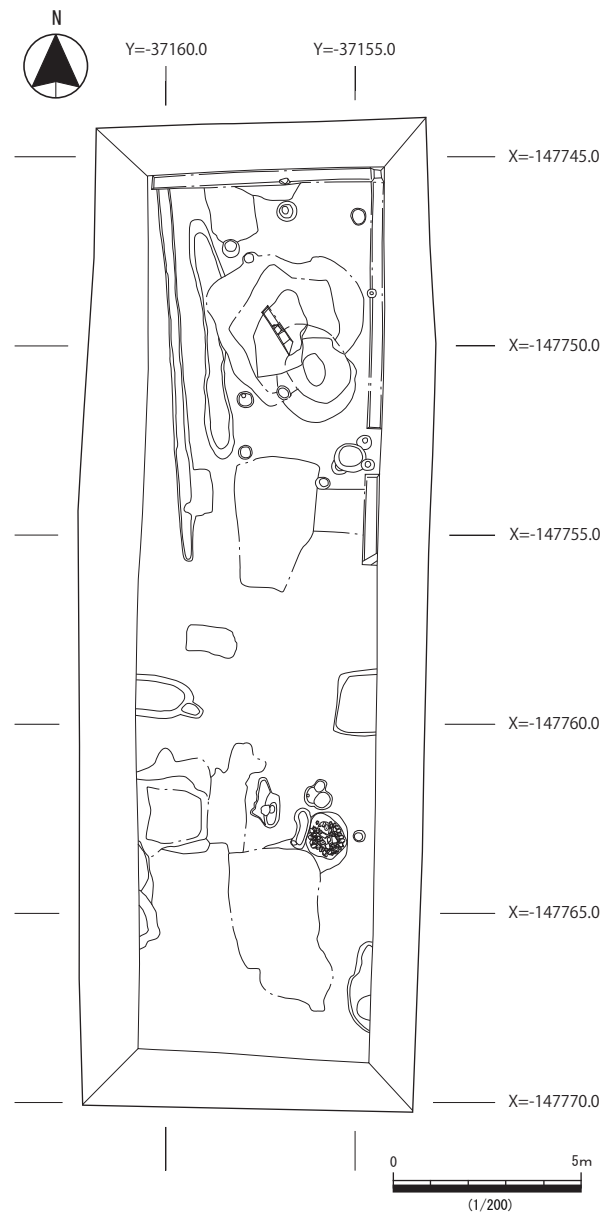


図2：トレンチ1 平面図 (S=1/200)

## ○トレンチ2

遺構はトレンチの南半と北端に集中しています。南半では複数の溝と多数の柱穴及び杭穴を検出し、北端では柱穴と複数の井戸を検出しました。南半で検出した杭穴や柱穴のなかには、東西方向に列をなすものがあり、杭列はすぐ隣に同間隔で並ぶ別の杭列があったことから、塀の立て直しが行われたことがわかります。また、柱穴のなかには、底に石を据えたものもあり、礎石建物があったことがうかがえます。北端で検出した井戸は少なくとも4基以上あり、石組み、素掘り、木製の桶を用いたものといった多様な井戸が重複するように掘られていました。また、トレンチの中央の高い位置で石列の残存を確認しました。15～30cmの花崗岩を東西方向に並べており、石の上端は標高3.0mあたりで揃えられていました。出土遺物は、瓦、播鉢、土人形、陶磁器のほか、下駄などの木製品などがあり、明治時代から戦前までの筆記具である石板なども出土しました。

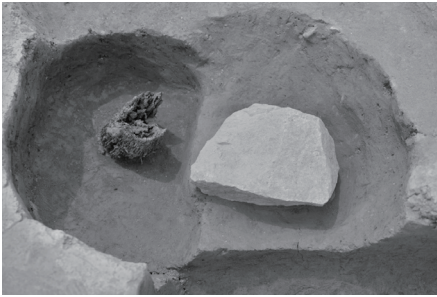


写真4：杭跡と礎石



写真5：木桶の井戸



写真6：トレンチ2 南半

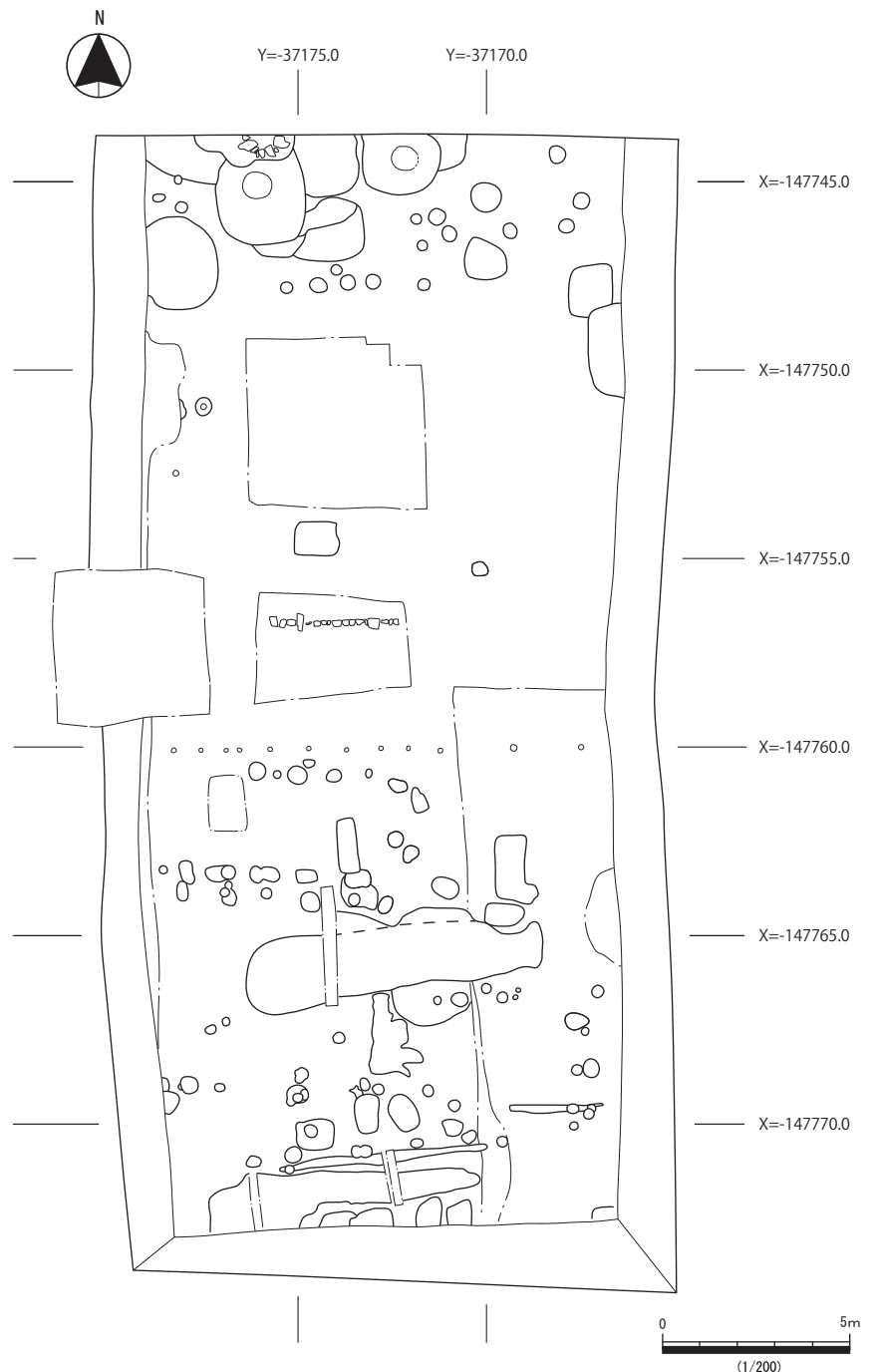


図3：トレンチ2 平面図 (S=1/200)

## まとめ

岡山中央中学校敷地内における調査は今回で3度目となりました。中学校の敷地内北側で調査を行った、平成16年の北校舎建設に伴う調査(第1次調査)、平成18・19年の体育館・特別教室棟建設に伴う調査(第2次調査)では、岡山中央中学校が開設される以前の岡山県女子師範学校や岡山藩藩学に伴う遺構を検出しました。しかしながら、今回の調査区では、既存建物の基礎がかなり深くまで及んでおり、建物基礎やこれらの設置・除去時の掘削作業により、大幅に遺構が破壊されていました。それにより、今回の調査で検出できた遺構面は、第1次調査および第2次調査時の遺構検出面よりかなり低く、絵図等と対応できる女子師範学校や藩学に伴う遺構は、杭穴や塀の基礎などの深い部分のみを検出するにだけにとどまりました。

また、遺構検出面とした標高2.3～2.6mの面以下の層における中世以前の遺構の有無を確認するため、トレンチ2において、トレンチ中央付近を追加で深掘りし、土層の観察を行いました。遺構検出面よりも下層には、洪水砂の層と水田耕土、低湿地堆積層、微高地基盤層が堆積しており、微高地基盤層には植物の根の痕跡は確認できましたが、遺構は確認できませんでした。今回の調査地点である岡山中央中学校敷地内南側においては、岡山城三之曲輪構築以前は中世の水田が広がり、それ以前には低湿地が広がっていたと推測されます。

3度にわたり行われた発掘調査により、岡山市立岡山中央中学校の敷地内における岡山城築城以前の土地利用の様子が次第に明らかになってきました。敷地内北側では、弥生時代後期頃ごろから開発が進められ、古墳時代にかけて井戸や溝が掘られ、粘土の採掘を行っていた可能性も指摘できます。古代には水田が広がる箇所もありましたが、一部では河が流れ、洪水により土地の安定しない状況が依然として続いていたようです。南側は長らく低湿地が広がっていましたが、古代になると北側と同様に水田耕作がはじめられたと考えられます。中世になると土地が安定し、南側も含めた敷地内全域で水田が営まれるようになりました。

## 【参考文献・資料】

石坂善次郎編 1932『池田光政公傳』上巻

岡山市教育委員会編 1968『岡山市史』宗教・教育編 岡山市

安川満編 2008『岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡』岡山市教育委員会

「岡山内曲輪絵図」『池田家文庫』T6-20

「学校御絵図」『池田家文庫』T11-21

作成者未詳 1853「国学新図」『池田家文庫』T11-28